

第2章 環境関連産業の創造と振興

第1節 産学官の連携による環境関連技術・製品の開発

1 産学官による研究開発支援【地域産業・技術振興課】

県では、県内における様々な分野での産学官共同研究や県内企業の技術開発を推進しており、環境関連技術の開発についても支援しています。

ふくい産学官共同研究促進補助金【平成17年度】

県内企業を中心とした産学官共同研究グループが行う、様々な領域での産学官共同研究の実施を支援しています。

- ・微生物と電気化学処理を組み合わせた染色有色排水の脱色処理技術の開発

- ・和紙残さを炭化し、活性炭や電池材料に利用する技術の開発

早期事業化促進技術開発補助金【平成17年度】

県内企業が行う産学官共同研究の成果や特許、独創的技術等を活用した事業化に向けての実用化技術開発を支援しています。

- ・木粉混入生分解性ウレタン利用による環境に優しい木製間仕切りの試作開発

2 県の試験研究機関における環境関連技術等の研究開発

(1) 衛生環境研究センター【環境政策課】

衛生環境研究センターでは、大気や河川・湖沼・海域および地下水等の環境汚染の発生や拡大を防止するため、測定や調査研究を行っています。また、環境関連技術の開発にも取り組んでいます。

○河川水質浄化研究事業【平成15～16年度】

県内産の天然素材である木炭やゼオライトの水質浄化メカニズムや浄化能力を解明し、得られた成果から木炭とゼオライトを組み合わせた複合素材による水質浄化の実用化を目指す。

○湖沼底質改善研究事業【平成15～16年度】

アオコの栄養源である磷の湖沼底質からの溶出を抑える底質改善剤の実用化を目指す。



湖沼の底泥採取

(2) 工業技術センター【地域産業・技術振興課】

工業技術センターでは、県内産業の活性化に向

け、様々な分野の研究開発を実施しており、環境関連技術の開発についても取り組んでいます。

表3-2-1 工業技術センターの環境関連研究開発事例

事業名	研究テーマ名【研究期間】	研究概要
地域科学技術振興研究事業	廃棄物焼却炉排ガス中のダイオキシン類吸着用活性炭の開発【平成15～17年度】	焼却炉排ガス中のダイオキシン類の除去を目的として、繊維加工廃棄物を原料とした活性炭を開発する。
	エコ対応機能性材料・加工技術の開発【平成16～18年度】	プラスチック廃棄物のリサイクル技術や生分解性高分子を用いた新しい環境低負荷型高分子材料を開発する。
	新焼成法によるセラミックス資材創成技術の開発【平成16～18年度】	廃瓦を再利用し、軽量、透水性、断熱性に優れた舗装タイルを開発する。
次世代ものづくり技術研究事業	開繊炭素繊維を用いた先端複合材料の三次元加工技術の開発【平成15～18年度】	炭素繊維複合材料から炭素繊維を取り出し、再利用する技術を開発する。

(3) 雪対策・建設技術研究所【土木管理課】

雪対策・建設技術研究所では、本県の自然条件および経済社会条件を踏まえ、環境負荷の少ない雪対策技術や自然との共生、リサイクルの推進に対応した建設技術の研究開発を行っています。

- 街路樹の剪定クズと下水汚泥を用いて堆肥化し、植栽の土壌改良材等で活用を図る研究【平成16年度～18年度】
- 廃プラスチックから得られるワックス成分を用いたわだち掘れのしにくい耐久性のある舗装技術の

開発【平成16年度～18年度】

- 廃プラスチックから得られるワックスと木材チップを混合した歩道や園路の舗装材の研究開発【平成16年度～18年度】
- 地下水の節減または地下水を使用しない消雪、融雪方策に関する研究開発（第3章第1節4、52ページ参照）【平成12年度～22年度】
- トンネルの省エネルギー化のため、照明の制御および灯具の選択についての研究【平成16年度～18年度】

(4) 農業試験場、園芸試験場

【農業技術経営課】

農業試験場および園芸試験場では、化学合成農薬や化学肥料の使用量を抑えた安全・安心な農産物の生産・供給のための研究開発を行っています。

- ニホンナシの主要病害虫発生予察、簡易栄養診断技術の開発【平成16年度～19年度】

本県の主要果樹の一つのニホンナシにおいて、主要病害虫の発生予察技術、有機肥料を利用した施肥体系の研究開発

- フェロモンを利用したハスモンヨトウ、コナガ等の害虫防除技術の確立【平成14年度～18年度】
- 抵抗性の発達がなく、安全で取扱いが容易であるなど、多くの利点をもったフェロモン（におい）を利用し、キャベツ、ホウレンソウ栽培において

化学合成農薬の使用を抑えた害虫防除技術の研究開発

- ダイズ主要害虫の発生生態の解明と効率的発生予察技術の開発【平成15年度～17年度】
- フタスジヒメハムシについては、発生生態の解明による防除技術、ダイズカメムシ類ハスモンヨトウについては自動カウント式トラップ利用による防除技術の研究開発
- ウメの局所施肥による土壌改良・環境保全技術の開発【平成16年度～18年度】
- 肥料は全面表層施用され、圃場外に流出しやすいため、肥料成分の利用率向上を図り、施肥量の削減および肥料成分の流亡を低減するための堆肥および肥料の局所施肥技術の研究開発

(5) 総合グリーンセンター【県産材活用課】

総合グリーンセンターの林業試験部では、環境関連技術の開発として、森林の水土保持機能の低下が懸念されているナラ類集団枯損を防止する技術開発を行っています。

この枯損には、カシノナガキクイムシが関与していることから、ビニールシート被覆法と薬剤処理法で防除対策を行っています。これらの対策に加えて、カシノナガキクイムシの個体数をコントロールする方法の研究も行っています。



ナラ類集団枯損被害地



ビニールシート被覆法